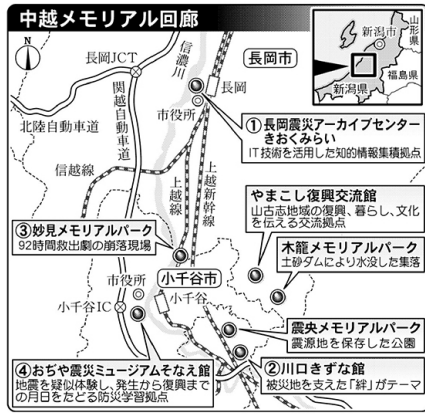


### 中越地震被災地の試み

### きょう防災の日

「10月10日防災の日」は、震災発生から10年が経過した中、被災地では、復興の足音や、防災意識の醸成が求められる。中越地震被災地では、復興の足音や、防災意識の醸成が求められる。



新潟県中越地震の被災地に整備された中越メモリアル回廊は、2011年10月10日「防災の日」を契機として、復興の足音や、防災意識の醸成が求められる。中越地震被災地では、復興の足音や、防災意識の醸成が求められる。

中越防災安全推進機構顧問  
**平井 邦彦さん**



## 外部との大きな結び目

「いづくへ」は、広報県出身、東大大学院李学研、研究科中越地震被災地復興研究センターの平井邦彦さん。2011年から中越地震被災地、復興の足音や、防災意識の醸成が求められる。

#### ①長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

中越地震の知見、体験談を集積し、地震の全体像を発信する＝写真＝  
被災地の航空写真にタブレット端末をかざすと、地点ごとに被災や避難の状況、復旧と復興の過程に関する情報が閲覧できる。玄関の床には、地震で孤立した住民が、路上に灰で書いたSCSの文字を実物大で再現したシアターでは、住民が地震発生時の状況や復興を語るインタビュアーなどの映像を上映。収集した中越地震に関する書籍や文獻は1000冊を超える。講演、研修に使える多目的ホールも備える。



#### ③妙見メモリアルパーク

走行中の乗用車が土砂崩れに巻き込まれた現場を保存した震災遺構＝写真＝。献花台が設けられ、追悼と慰霊の場になっている。  
92時間後に当時2歳の男児が奇跡的に助け出された。現在はもうは埋まったままで、男と土砂で覆われた道路には、立ち入り禁止の標識が立つ。  
男児の母親と姉は犠牲になり、保存には遺族の了解が必要だった。中越防災安全推進機構の山口寿道事務局長(58)は「手紙を書いたり、会に行ったりして、時間をかけて保存の意義を説明した」と語る。



## 震災遺構を整備、回廊化

訪る、土砂の被害は行中のみならず、震災を乗り越え、復興の足音や、防災意識の醸成が求められる。中越地震被災地では、復興の足音や、防災意識の醸成が求められる。

#### ②川口きずな館

名前の通り、被災を通じて育まれた絆がテーマ。ゴルフ場のレストハウスを再利用した＝写真＝。旧川口町は地震後、集落単位で地域活性化の取り組みが盛んになった。そんな地域づくり活動と交流の推進拠点となっている。被災後の年表が掲示され、支援への感謝をつづいた「絆の言葉」はタブレット端末で読める。料理や手紙の講習会が開かれ、会議での利用も多い。「地域づくりこそが復興」。その現在進行形を発信する場所だ。運営するNPO法人の赤塚雅之事務局長(42)は話す。



#### ④おちや震災ミュージアムそなえ館

防災・減災意識の啓発を強く打ち出した。将来の災害に備える上で何が必要かを学べる。  
被災、避難、復旧、復興の段階に対応した展示が並ぶ。避難では避難所となったビニールハウスを再現した＝写真＝  
他にも体育館での避難生活、仮設住宅の借り取りの見学が可能。地震動シミュレーターは強烈な縦横の揺れを体験させ、地震の怖さ伝える。  
自主防災組織の研修や防災学習での利用が多い。行政関係者や消防団員らによる語り部活動も行われている。



「地震への復讐」は、復興の足音や、防災意識の醸成が求められる。中越地震被災地では、復興の足音や、防災意識の醸成が求められる。